



正田醤油株式会社
環境報告書 2017

正田醤油の概要

会社概要

創 業 : 明治6年12月25日
設 立 : 大正6年12月25日
代 表 者 : 代表取締役社長 正田 隆
資 本 金 : 1億円
従 業 員 数 : 410名(男 281名・女 129名)
事 業 内 容 : 醤油の醸造と加工調味料類の製造販売

事業所一覧

本社 〒374-8510 群馬県館林市栄町3-1
館林工場 〒374-8520 群馬県館林市栄町14-1
館林東工場 〒374-0001 群馬県館林市大島町東部工業団地6013
流通センター 〒374-0001 群馬県館林市大島町東部工業団地6013
東京オフィス 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-7
首都圏営業部 〒374-8510 群馬県館林市栄町3-1
東北営業部 〒984-0075 宮城県仙台市若林区清水小路6-1東日本不動産仙台ファーストビル11階
中部営業部 〒451-0043 愛知県名古屋市西区新道1-13-31プランドール4階
西部営業部 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-1-1新大阪プライムタワー20階

この環境報告書の編集方針

この環境報告書は、次のように皆様にご利用いただくよう考えて作りました。

- ・近隣の皆様が安心してお住まいになられるため
- ・お客さまに当社製品を安心してご使用いただくため
- ・従業員の一人一人が環境に関心をもち環境保全活動に積極的に取り組むため

今後も皆様のご意見をいただき、継続して発行していく予定です。

参考にしたガイドライン : 環境省「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」

対象組織 : 本報告書では、正田醤油株式会社の国内における全事業活動を対象としています。

対象期間 : 2016年4月～2017年3月

発行年月:2017年8月 品質保証部

ごあいさつ

正田醤油の食品製造事業は、豊かな自然の恵みを源として営まれています。近年の異常気象や自然災害は地球温暖化も要因の一つと言われており、私たちをとりまく自然環境との共存がどんなに大切なことかということを改めて考えさせられます。そのような中で、環境保全に対して誠実に向き合うことは、「安心」「安全」な食品をお届けすることと同様に、当社の重要な社会的責任であると考えています。

正田醤油では、環境マネジメントシステムを確固たるものとするため、本社・研究部門と各生産拠点（館林工場、館林東工場、正田フーズ本社工場、正田フーズ館林工場、正田食品松阪工場）でISO14001の認証を取得し、環境負荷の低減に努めています。また、経営におきましても、環境への取り組みが重要な課題であると考え、「第8次中期経営計画」に「環境負荷の低減」および「環境活動への意識向上」を全社の環境活動方針として掲げ、さらにこの方針は年度ごとに策定する当社の事業計画で全社に展開しています。

事業活動への展開として、最近では、たとえば以下のような取り組みを行っています。

- ・廃棄物発生の低減に努めています（リデュース）。
- ・しょうゆを製造する際に発生する搾り粕等の食品廃棄物の再生利用に取り組んでいます（リユース）。
- ・設備の更新による省エネを進めています。
- ・梱包資材やペットボトル容器などの軽量化の検討を進めています。
- ・使用している全車両の4割以上にハイブリッドカーを採用しています。
- ・社員とその家族による館林市内のクリーンアップ活動などを行っています。
- ・社員向け環境セミナーを開催して、環境意識の高揚を図っています。

正田醤油が果たすべき多くの社会的責任の中で、環境への取り組みは年々重要度を増しております。お客様、地域社会、社員をはじめとするステークホルダーの皆様の声をお聞きし、「安心」「安全」はもとより環境についての取り組みも統括的・継続的に実施していきたいと考えております。皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年8月



正田醤油株式会社
代表取締役社長 正田 隆

環境マネジメント

ISO14001 認証

正田醤油では、1998年度から「環境にやさしい企業の実現」を目標に掲げ、環境保全に取り組んできました。その上で、これをさらに確実にするために、国際規格であるISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、2004年に本社、研究所で認証を取得いたしました。以来、毎年認証の範囲を拡大しており、2007年取得の正田フーズ館林工場を皮切りに、関連会社への拡大を進めております。

- 2004年 5月 本社、研究所(館林市) 認証取得
- 2005年 7月 館林工場(館林市) 認証取得
- 2006年 6月 館林東工場、流通センター(館林市) 認証取得
- 2007年 12月 正田フーズ(株)館林工場(館林市) 認証取得
- 2009年 1月 正田食品(株)松坂工場(三重県松阪市) 認証取得
- 2010年 1月 正田フーズ(株)本社工場(栃木県佐野市) 認証取得



環境方針

正田醤油 環境方針
環境理念

正田醤油は、環境に配慮した事業活動を通じて、安全で健康な社会づくりに貢献します。

行動指針

1. 商品開発・生産・販売活動すべてにおいて、環境保全及び環境保護に努めます。
2. 関連する環境法令を順守し、自主基準を設けて実行します。
3. 環境目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的改善と環境負荷の低減に努めます。
4. 環境活動への意識向上をはかり、全員で環境改善に取り組みます。

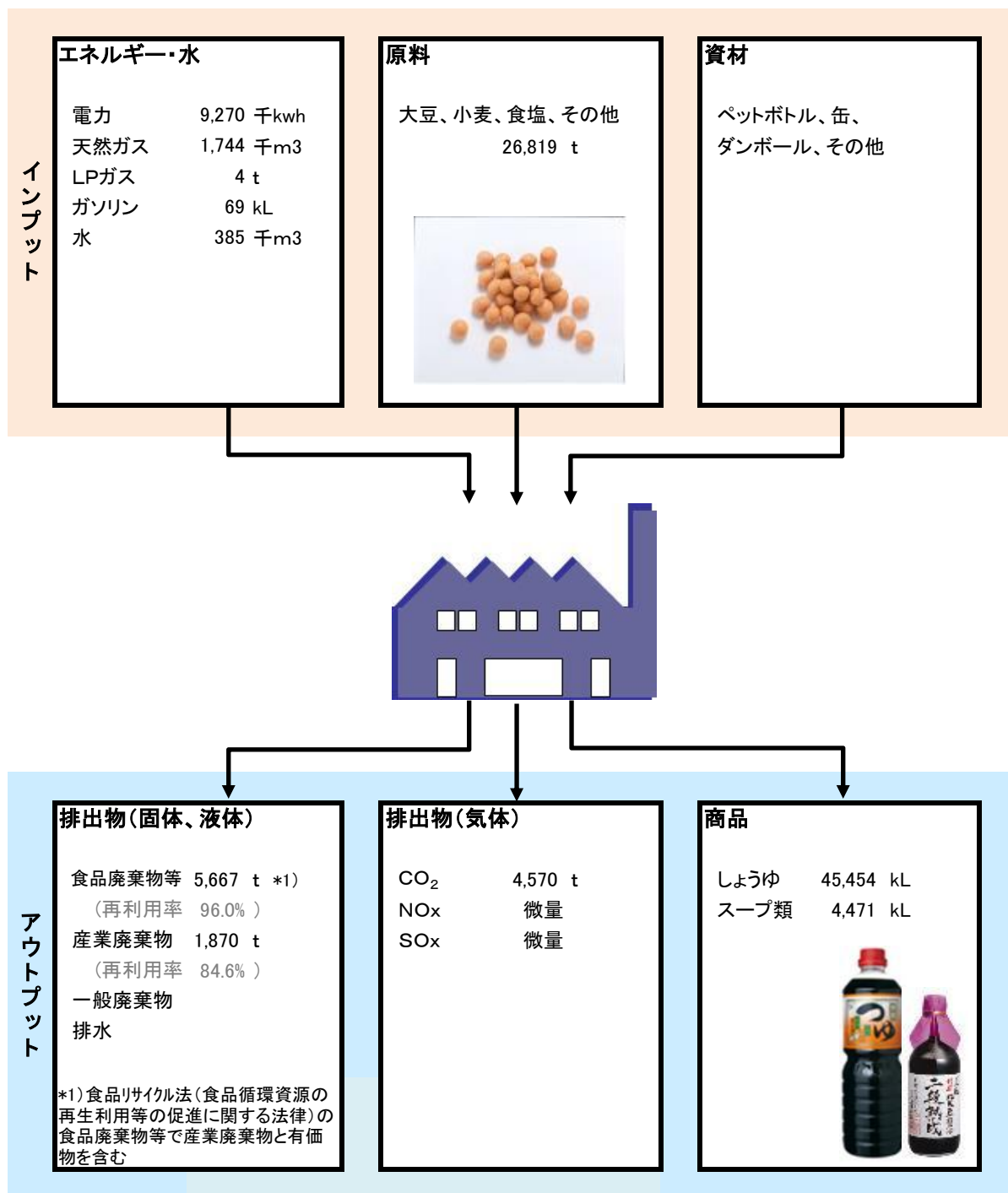
2017年6月 代表取締役社長 正田 隆

正田醤油の事業活動と環境のかかわり

正田醤油の事業活動が、環境に影響をおよぼすことを意識し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

エネルギー・資源・排出物のフロー(2016年度)

正田醤油では、しょうゆやスープ類を製造・販売しています。これらの事業活動においては、原材料だけでなく、エネルギー、水などを使用し、CO₂や廃棄物などを排出しています。そのため、正田醤油では、開発、生産、流通といった事業活動の各段階で、これらの環境負荷を低減するように努めています。



取り組みの成果

中期目標と2016年度実績

		中期目標 (2018年末到達目標)	2016年度目標		
			目標	実績	評価
エネルギー効率の向上	エネルギー消費原単位の削減 *1)	前年度比100%未満かつ 5年平均99%以下	前年度比100%未満かつ 5年平均99%以下	前年比より約3%減 5年平均で約100%	△
資源の再生利用と 廃棄の削減	棚卸資産廃棄の削減	売上の0.25%以下	売上の0.25%以下	売上の0.27%	×
	マテリアルリサイクル率の維持・向上	・産業廃棄物のマテリアルリサイクル率90%以上 ・食品廃棄物の再生利用実施率95%以上	・動植物性残渣100%維持、その他は95%以上 ・食品廃棄物の再生利用実施率95%以上	・醤油粕、醤油あぶら100%維持、その他97.1% ・96.0%	○

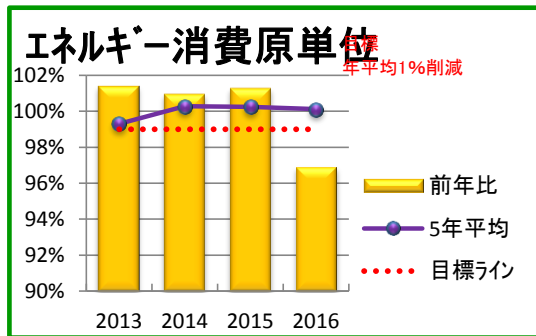
*1) エネルギー消費原単位は“エネルギー使用量”と密接な関係を持つ値で除したもののことで、エネルギー効率を表す値(詳細は省エネ法参照)。当社の場合、醤油生産量(千kl)を採用。

2016年度は、省エネ設備の導入などによりエネルギー消費原単位が前年度比約3%減となり、目標を達成しました。近年、生産量の落ち込みなども影響し、過去数年間未達の状態が続いていたために、中長期目標である5年平均の目標は達成できませんでしたが、今後も省エネ機器・設備の更新等を計画し、省エネに努めて参ります。また、電力会社の変更により、従来よりもCO₂係数が低くなったため、結果的に温室効果ガスの低減に繋がりました。

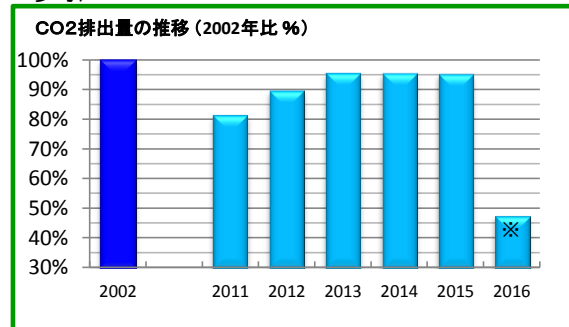
また、廃棄物の削減として、しょうゆ粕を売却し、飼料として利用しています。毎年通り、醤油粕の飼料化を100%に維持することができたことに加え、その他のリサイクル率についても目標を達成することが出来ました。これからも廃棄物発生量の削減とより良い再生利用方法を検討してまいります。

データ

●エネルギー消費原単位の削減

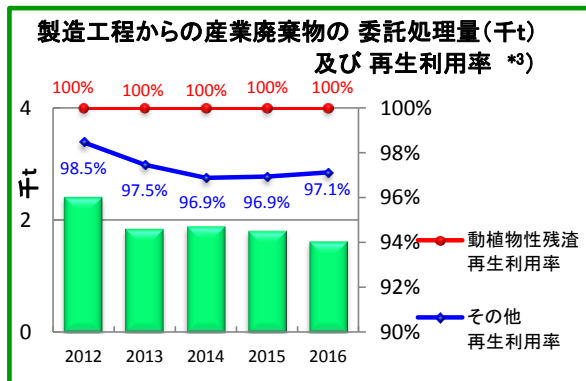


参考)

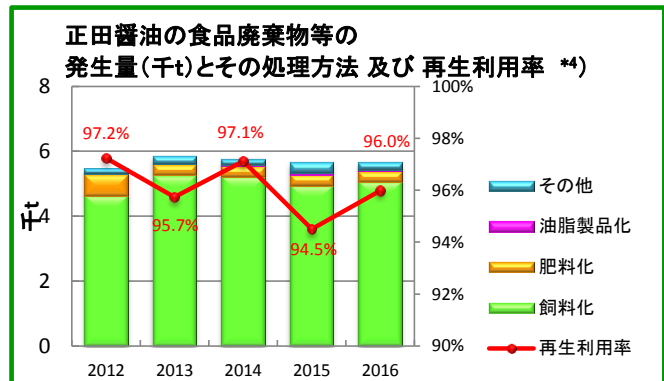


※2016年5月に電力会社を変更

●再生利用率の維持向上



*3) サーマルリサイクルは再生利用率に含まず



*4) 再生利用とは食品廃棄物等の処理方法が食品リサイクル法の特定肥料等の製造に該当するもの

具体的な活動1 地球温暖化防止対策

地球温暖化防止のため、工場ではそれぞれの工程で使うエネルギー量を測定し、分析することで、無駄なエネルギーを使わないように管理しています。また、営業車にハイブリッドカーを使用するとともに「正田Eco-style」運動として通年の冷暖房温度を管理するなどして、全社で省エネルギー活動に取り組んでいます。

正田Eco-Styleの実施



正田Eco-Styleとして、年間を通しクール・ビズ、ウォーム・ビズを実施しています。

排水処理施設更新による省エネ

館林工場では老朽化した排水処理施設の再構築中です。2015年度にブローア室移転集約化と前処理施設の移転更新を実施しました。省エネ効果としては、排水処理施設全体で電力量を年間520MWhから450MWh(△13.5%)へ削減することができました。工場全体の電力量で見ても△3.5%にあたる、大きな削減効果が得られています。



新ブローア室



新前処理施設

設備の集約化及び更新



熱交換器(集約化後)



熱交換器(撤去予定)

社内改善活動の取り組みにより、熱交換器を集約しました。この集約化により、加熱工程で使用する蒸気を約20%削減することに成功しています。



冷却室内(更新後)



冷却チラー(更新後)

冷却チラーを更新しました。従来の水冷式から空冷式に変更した事により、メンテナンスも不要となりました。まだ本稼働する夏季を迎えていないのですが、更新後の電力量は約40%削減できています。

館林東工場 厚生棟 エアコン更新

オゾン層破壊物質であるHCFC類(R22冷媒等)は、モントリオール議定書およびオゾン層保護法により2020年末までにその生産及び消費を全廃することとされています。当工場では、厚生棟のエアコンのほとんどにR22が使用されていることから、2016年より更新を開始し、エアコン9台を冷媒HFC(R410AおよびR32)の最新機種に入れ替えました。省エネ効果としては、13kWh/年の電力削減が見込まれます。今後は生産エリアのエアコンの更新も順次進め対応していく予定です。



ロールカーテンの設置

本社棟のアトリウムにロールスクリーンを設置しました。ガラス張りであったために、夏はとても暑かったのですが、ロールスクリーンを設置することにより、遮熱効果が見込まれ、節電にもつながります。



ハイブリッドカーの導入



1998年から営業車を中心に、ハイブリッドカーの導入を進めてきました。ハイブリッドカーは現在26台あり、正田醤油で使用している全車両の約4割以上がハイブリッドカーになっています。

蛍光灯からLEDへの切り替え

本社棟では照明器具の省エネ器具化を進めています。アトリウム・ホール等の共用部の照明、非常灯などLEDに切り替えることによる節電効果が見込まれます。



大型冷蔵庫更新

研究棟屋外で使用している大型冷蔵庫の更新を行いました。更新前は3基の冷却器を使用していましたが、省エネタイプの冷却器2基に変更しました。これにより研究棟の年間電力消費量の約10%の削減効果が見込まれます。

具体的な活動2 工場における環境保全活動

正田醤油には、東武鉄道・館林駅前の館林工場と、東北自動車道沿いにある館林東工場の2つの工場があります。館林工場は市街地に隣接していることが、館林東工場は年々生産設備を増強していることが特徴であり、その特徴にあわせて環境保全に取り組んでいます。

環境関連の法規制の遵守

2015年度に関して、法規制を逸脱するようなことはありませんでした。今後も引き続き法規制が遵守できるように管理を行って参ります。

大気汚染の防止

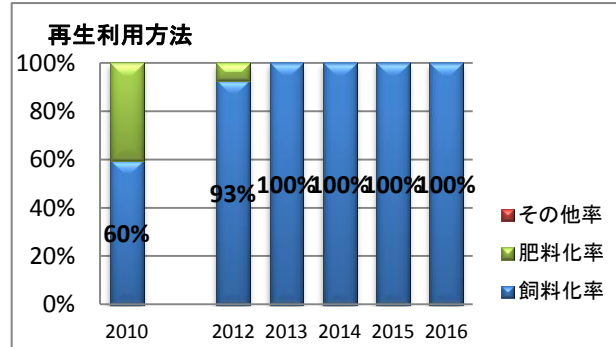
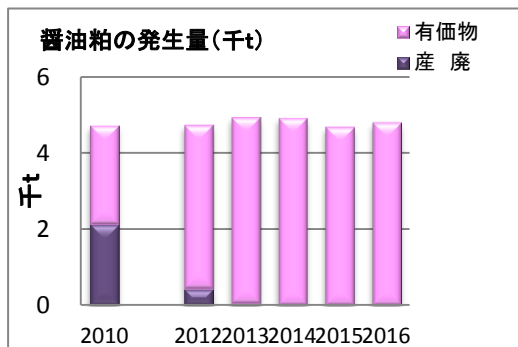
館林工場はA重油から、館林東工場はLPガスから、よりクリーンな天然ガスに変換しています。

天然ガスは、燃焼した場合、地球温暖化を引き起こすCO₂や光化学スモッグの原因となるNO_x(窒素酸化物)の排出量が石油や石炭に比べて少なく、また酸性雨の原因となるSO_x(硫黄酸化物)や煤塵(ばいじん)の発生は全くありません。



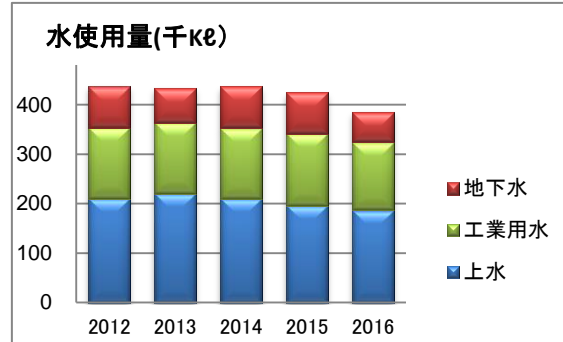
しょうゆ粕の廃棄の削減と飼料化への再生利用の拡大

2010年時点でしょうゆ粕のうち産業廃棄物が35パーセント占めておりましたが、現在は0%、全て有価物となっており、当社全体の産業廃棄物の削減に大きく貢献しております。また、食品リサイクル法では、特定肥飼料等への再生利用を推進しており、当社のしょうゆ粕の特定肥飼料等への再生利用は100%となっています。



水の節約

冷却水のオーバーフローの水量、配管凍結防止用の水量を調節したことで、地下水の使用量を削減することができました。今後も継続して節水に取り組んで参ります。



具体的な活動3 その他の取り組み

正田醤油では、すべての事業活動で環境に配慮するように努めています。その事例を次にご紹介します。

グリーン購入の推進

グリーン購入の推進のため、オフィス用品や作業着などに環境配慮品を優先して購入しています。

環境に配慮した容器・包装

1LPET

主に家庭用でお使いいただいている1LPETボトルにつきまして、従来使用しているボトルに比べ、1本あたり約4g(33g→29g)の減量を行いました。年間数量に換算すると約24トン(前年比)になります。



18L缶

業務用ユーザー様にご愛用頂いております18L缶につきまして、従来使用していた缶に比べて総重量が約10%軽くなりました。これにより省資源、廃棄物の低減に加えて、運送時の省燃料の効果が期待され、CO₂削減の取り組みに貢献しています。



ゴミ拾い運動

「クリーンアップ正田ウォーキング大会」を毎年1回開催しております。この企画は2002年度からの恒例行事として行っており、社員とその家族によるボランティア活動です。ごみ拾いを通じて環境問題への意識を向上させるとともに、健康の維持も兼ねて実施しております。今回は、館林市の名所である「県立館林美術館周辺」で行いました。



他にも、館林東工場におきましても、工場周辺の清掃など、美化活動に取り組んでおります。

東部工業団地 五社会

